

中野稲門会 会報

平成 18 年 4 月 22 日
第 26 号



中野稲門会

発行 中野稲門会
住所 中野区中央 5-39-11 青柳ビル
(株) 新日管内
TEL 03-3384-1400



本年度の総会は5月21日(日)

本年度の総会は5月21日(日)、中野サンプラザにおいて開催いたします。

本年度は、役員改選の年です。設立して8年、役員の一部入れ替えをし、新たなスタートをしたいと思っております。会運営に参加ご希望の方は是非この機会に申し出ていただきたく思います。

講演会は、早稲田大学から副総長の村岡洋一氏をお招き

し、「早稲田とIT」について、

お話いただきます。最近のIT業界では、いい話題、面白い話題、色々あるようですが、その中で、早稲田大学がどのような方向を目指そうとしているのか、世の中でどのような位置づけにあるのか、どのような課題をかかえているのかなどについて、分かりやすくお話していただきます。

■講師 村岡洋一氏

早稲田大学副総長(総会只企画研究推進、情報システム担当)

1942年宮城県仙台市生まれ

1965年早稲田大学理工学部電気通信学科卒業

1971年アメリカイリノイ大学電子計算機学科博士課程修了 (Ph.D.)

1985年より早稲田大学理工学部教授

2002年11月より副総長



パリのサンジェルマン デ プレのギザルド通り。この辺も中庭 (cours) やパッサージュ (passages) の改築が進んでいます。

INDEX

総会案内	1
ドイツを偲ぶ	2
新年会報告	3
巨樹を訪ねてみませんか?	4
色あれこれ	5
夢魂川柳	5
学生時代に聴いた講演 (下)	6
東京都 23 区支部だより	9
ご近所の花便り	10
詩、うた「音楽」	10
世界遺産への旅「セビリヤの大聖堂」	11
会長だより「会設立のあゆみ」	12
スポーツ観戦同好会発足のお知らせ	13
ラグビー通信	13
部会活動報告	14
編集後記	16

中野稲門会平成 18 年度総会

- 日時: 平成 18 年 5 月 21 日 (日)
16:00 ~ 19:00
第一部 (16:00 ~ 17:30)
第二部 (17:40 ~ 19:00)
- 会場: 中野サンプラザ 15 階エトワールの間
- 会費: お一人様 7,500 円
- 内容:
[第一部] 総会&講演会「早稲田とIT」
[第二部] 懇親パーティ



ドイツを偲ぶ

柴田 豊 (上鷲宮・昭37理工)

公共のマナー意識における

日独の相違

昨年、中野稲門会に入会させて戴きました。私は40年間の会社勤めのうち38年間は商社、最後の2年間は建設関係の会社勤務でした。昨年及び今年はドイツ友好年でもあるので、ドイツにて印象に残ったこと、感銘したことを述べてみたいと思います。

1973年から約4年間当時の西ドイツに駐在した。デュッセルドルフの市電に乗った時のことであるが、1人の年寄りが増えて来て座席に坐っていた子供にいきなり文句を言い始めた。要は、子供は老人と違い体力があるのだから例え小さな子供でも立っているのが当然と言うことらしい。又電車の中、スーパー等で子供が大声を出して騒いでいると全くの他人が、その子供を静かにしると叱りつけているのを何度か目にした事がある。叱りつけられた子供の親は恥ずかしそうに謝っていたが、かかる場合、日本の親はどう言う態度に出るのであるか……。

華やかなパーティは 楽しい思い出

当時娘はキンダーガルテンに通っていた。夕刻から父親のみが各自材料・工具を持ちよりキンダーガルテンの教材作りを先生の指導のもと製作する集まりがあり、私は唯一の日本人として参加した。作業が終わった後別室にワインが用意されパーティの準備が整っていた。女性の先生達はいつの間にかパーティドレスに着替え、優雅に現れたのには驚いたが、美しい女性先生たちを囲み、一杯やりながら談笑出来たのは良い思い出である。因みにこのキンダーガルテンはプロテスタント系教会が経営しており同じ敷地内にある。パーティ解散後、数人のドイツ人から声がかかり、他のドイツ人達と自宅に呼ばれ、結局2軒の家を梯子することになり略奪して真夜中に帰宅した。日本だと普通は飲み屋に繰り出すのだが。

日本の歴史や伝統に 関心を示すドイツの人たち

ところで日本への関心は古い

歴史・文化伝統である。近代化された日本の文化・社会には一般的に余り興味を示さない様な気がする。初めて会う客とか近所のドイツ人によく禅・柔道・空手のこと等をいきなり聞かれ戸惑ったことが何度かある。

長男は小学校一年生の時から剣道・サッカーをやっていた。日本人が1人もいない或るドイツの少年サッカーチームに入れた時、息子は日本武道を知っていると言うことでドイツの子供達から苛められずに済んだらしい。西洋のスポーツを日本でやっていたとしても、余程高い技能でも持ち合わせない限りやはり本場では一目おかない。私の妻は活花をやっていたので近所のドイツ人に活花を教えることにより、お返しにケーキ・ドイツ料理の作り方を教えてもらう等してドイツの友達が出来ていったし、ドイツ語勉強にも大いに役立つ様である。

日本人が国際人になるのはやたら欧米人風に振る舞い欧米人化するのではなく、日本人として先ず毅然たる態度で欧米人に接すると共に、日本人の伝統文

化・武道のどれかはひとつを身につけた上での国際人にならないうと日本人は欧米人から余り尊敬されないのでは、というと言いつつ過ぎになるのであるうか？
日本に戻ってきてからも仕事の関係上度々ヨーロッパを訪れた。1990年の出張時ドイツに立ち寄った時に見聞きしたことは強く印象に残っている。

戦争の傷をいやす

片田舎の灯火に感動

日本もドイツも第二次大戦の

身元も判らない若い兵士の死を憐れみ、町の人が祠を建て、今日に至るまで町の誰かが花を飾りつけて、供養しているのがある。名もない様な美しい小さな町に戦争の傷跡が残っているのにも驚いたが、田舎の町の人々のやさしい暖かい気持ちに感動した。今でも小さな祠に揺れていた蝋燭の燈が鮮明に脳裏に焼きついている。この兵士の故郷は何処だったのであるうか。

戦禍の傷跡は、極く一部の例外を除き、町並みからは姿を消している。然しフラックフルトより車で2時間ほど南へ走った小さな静かな町の一角に愛らしい祠があり、花が飾られ、蝋燭の燈が揺れているのを目撃した。地元の人に聞いたところ、連合軍に追われ負傷して逃げてきた若いドイツ兵が引き倒れて死亡した場所だと言う。



◆ 2006 年度中野稲門会新年会報告 ◆



中野稲門会新年会が、1月21日、恒例中野サンプラザにて開催されました。当日は、なんと朝から大雪。それでも夕刻には降りも軽くなり、15階「ホレストの間」の外は美しい雪景色でした。

第一部は、(株)イナホ代表取締役・医療ジャーナリストの松井寿一先生の講演会「笑いは百薬の長」。最初から最後まで、笑いの連続のお話の中、心に納得するものも多く盛り込まれ、あっという間に一時間が過ぎました。

第二部は、懇親会です。中村誠司さんの乾杯挨拶に始まり、新人紹介や、新部会「スポーツ観戦同好会」の紹介が続きます。恒例「イナホーズ」の演奏は、美しい「ロミオとジュリエット」で市川哲子さんのバイオリンの大輪の花。さらに東直彦さんの熱唱、全員での「赤とんぼ」斉唱と、会場は大いに盛り上がりました。今年もありがとう！締めは、大学応援団によるエール。校歌の元に皆の心がひとつになった雪の夜でした





巨樹を訪ねてみませんか

新聞科第一期卒、朝日新聞記者、朝日カルチャー立川社長歴任。巨樹に親しむ会長

全国に6万本以上ある巨樹

これから新緑の季節、しばしパソコン・テレビを離れて気分転換、巨樹を訪ねてみませんか。山奥に行かなくても身近な社寺、街の中に巨樹はあります。例年にならない寒い冬を乗り切った巨樹たちが何百年目かの新芽を萌え立たせている様はたのしく元気づけられます。

巨樹とは環境省分類によると根際の地表から13mの高さの位置の幹回りが3m以上の樹をいいます。全国に6万4479本あります(環境省2000年

調査) 全国最大の巨樹は鹿児島県の蒲生町八幡神社境内にあり、幹周24・22m高さ30mの国特別天然記念物の大クスです。大人17〜18人が手をつないでやっと一回りできる太さです。

今年一月末、仲間と10年ぶりに再訪問しました。前回訪問直後から急速に弱り出し、国と地元が協力して補修保全4カ年計画を立て9500万円という前例のない巨費(国が半額補助)残りを県と町が折半)を投じ、枯枝伐採、土の入れ替え、空洞消毒、保護柵諸工事を実施して

宗田文隆(野方・昭24政経)

環境が一新されていました。そのかいがあって再生が順調に進んでいるとのこと、樹形はややスリムになっていました。

外からはわからないが幹の内部に八畳ぐらゐの空洞があり、小木戸からのぞかせてもらった。真つ暗闇の千古の静寂が漂っていました。平安中期の神社創建の時すでに大クスは存在していたと言ひ伝えられ、推定樹齢は1500年、類い稀なご神木大クスに感銘しました。

東京都の巨樹1位は港区 中野区の巨樹1位は沼袋

身近な東京都(伊豆諸島を除く)の巨樹1位は港区元麻布の善福寺イチョウ幹周10・4m国天です。昭和20年5月25日の空襲で本堂と共に黒焦げになったがまもなく芽をふき出し、今は小山のように大きく繁っています。都心は再開発で戦後の跡は皆無ですが、こんな生身の幹に歴史を刻んでいるとは驚きです。推定800年。

中野区の巨樹1位は沼袋2丁目禅定院イチョウで幹周5m高さ20m。一帯は5月の空襲で



太さ5mの禅定院イチョウの根元。空襲にも生き残った。



巨樹日本一の鹿児島県蒲生八幡クス。1億円近い手当てで、元氣回復。

中野区1位の巨樹。沼袋禅定院のイチョウ。



「色あれこれ」

板倉勝 (本町・昭38年商)

目は光の反射によつて色を感じている

私の家業は、塗装工事業である。私の父は酒が入ると、私の商売、ペンキ屋さんで、年中イロで苦労する〜と下手な都々逸をうなつたものである。この唄の文句のとおり、不肖の息子である私は、商売では未だ現役続行中で苦労がたえないが、もう一つのイロの苦労は、今もって経験したいと思つている。

さて、この世に色彩というものは、何十万、何百万とあるが、実は光のない闇の世界では何も見えない。すなわち物体そのものに色があるわけではなく、物体に可視光線があたり、例えばりんごの場合、その表面が赤色光である長波長側の光を多く反射し、紫色光の短波長側の光を多く吸収するからである。従つて、物体が黒く見えるのは、その表面が可視光線の全てを吸収しているからで、またある物体が白く見えるのは、すなわちその表面が可視光線の全てを反射しているからである。

同じ色でも色相によつて受ける印象は異なってくる

さてこのようなメカニズムで、私達は多様な色に囲まれているわけであるが、それぞれの色は色と色との相関関係で知覚されている。すなわち同じ色でも対比する色によつて、同じ色に見えるはずのものが違つたものに見えるたり、別個の色に見えるはずのものが、同じに見えたりすることがある。こういう色の性質を用いて、この世に存在するあらゆる物体の色彩がコーディネートされていく。つまり私達は色相(色合い)によつて、いろいろ異なつた印象を受けているのである。色相を暖色・中性色・寒色と三分類した場合、暖色は「暖かい」「積極的」「活動的」、中性色は「中庸」、寒色は「冷たい」「消極的」「沈静的」という感じを一般的に受ける。であるから、選挙戦、商品パッケージ、タレントの売込み等に於いては、イメージ戦術の重要ファクターとなつていのである。

年齢を重ねても明るい色の服を着こなしてみよう

最近バスの車内で、高齢者に對し「夜間の外出に際しては、明るく、良く目立つ服装をしましょう」というアナウンスが流されている。どんな服装をするかは個人の好みの問題で、大きなお世話とも思われるが、まんなら当を得てないわけでもない。日本人は概して、年齢を重ねるにつれ、地味な服装をすることが、粋だとか洒落だとか言われるが、最近は大分変化の兆しが見られるようだ。私共も欧米人ほどでなくても、もっと積極的に明るい、派手な色彩を身につけて着こなすようになれば、気持ちも前向きになり、景気回復の勢いも加速するのではないかと思われ。



夢魂 (むたま) 川柳へその四

【家元ひがし】東 直彦 (中野・昭和41理工)

脱皮して蛹は蝶に蛇は蛇

紫陽花と音で読ませて口説き酒

除夜の鐘煩悩の敷だと止まらない

陽照に逃げる私は慈悲の中

椽山の椽が茶髪と覗みつけ

逆光に何も見えぬ母の愛

逝きなされ花も酒も持つて逝く

アメリカは英国文化の貼りボッター?

秋深し我が家の家計もナナカマド

やや太し戦う女の喉仏

きつすぎたミニの下から尻4つ

野の熊に噛まれた町は村に降格

ハロウィーンにそのまま出ても可笑しく無い

五割引き定価は10割増しなんだ

百才はらよつと此の世にオーバーステイ

日だまりにナースに囲まれ義父出棺

大臣は狂牛面ではき食いし

飼いまより賢い犬で犬格者

求婚とセクハラと思ふ生まんりブ

鐘の音がつかれた女の中で鳴る

恋違遺若者賢人老人愚鈍

腹上死それとも本懐死下死か

9・11米の喪失命と良心

ホリエモン無念の挫折デッドドアー

亀さんが犬の刺客をホリエモン

トイレットで川柳詠んでも董り良し

「ハハシス」は今日から君は使えない

南無々ヒチンハ心の朝化粧

生きる者ひたすら歩くハイキング

美人女医胃カメラ怨念ごっちやませ

この度夢魂川柳集第二巻をつくりました。

第一巻と同様に頒布価 1,000 円でナント一句 2 円です。

希望者の方お知らせ下さいませすぐに郵送します。

家元 東柳 連絡先掲載サイト <http://www.higaship.com>





特集「早稲田の思い出」

学生時代に聴いた講演(下)

八巻晶彦(中野・昭38年文)

前号の特集の「早稲田の思い出」で大変興味深かったのの講義をひもといて頂いた八巻さんのノートの後編です。

●一九五九年後編

8/22 製菓ソフィア(上智)会
於甲府一高

除野信道

「盆地の経済発展計画」

甲府盆地はスイスを考察せよ、山の壁を突き破る、精密機械工業、観光事業に力を入れ、集約農業をせよ。

霜山徳壘

「臨床心理学よりみた現代日本人の心理」

ノイローゼが多くなっている、生活条件の変化である。「明日が信じられないー幸福の条件」自著紹介

エドワード・サイデン・ステイツカー

「日本文学の海外紹介についての諸問題」

日本語の翻訳の仕方、苦心、国情の差から来る。他国の文学作品を如何に読者に読ませるか。

ヨゼフ・ロゲンドルフ

「ヨーロッパから見た日本の文化」
尊く美しい日本の文化、継承し伝えるために努力してください。

9/25 科外講演部

於大隈講堂

O・F・ボルノ独チューリンゲン大教授

「希望の本質」

心配と希望は叡智で助けている(ゲーテ)。心配と希望は平静を乱す、希望は確かに心配より人間を向上させる、だがそれに溺れてはいけない。希望は嘘りではない。希望は喜び、期待は良悪である。期待はリルケ的、ガブリエール・マルセルは希望と人生は兄弟であると言う、希望は実存主義の虚無主義に対抗する。

10/18 科外講演部

於大隈講堂

高橋亀吉

「中国に招かれて」

マッチがない、便所に紙がなかった・ハンカチ一枚使用。建設工事が進み、新しい中国づくりに懸命である。

石橋湛山

「同右」※56年12/23〜57年2/3 内閣

現在日本はアメリカ一辺倒であるが、日本は中国と国交を回復するのが大切である。若い諸君と一緒に手を取り合い進んでゆこう。※72年9/29日中国交樹立

樹立

10/19 生協のつどい

於大隈講堂

野村平壘

「中国から帰って」

中国の労働者達の姿を見て、新興中国の力は民族主義によるもので、それは未来に向かって限りない前進を予測できる。

小田切秀雄

「平和共存に於ける知識人の役割」

安保条約改定反対に立ち上れ、知識人ならそうせねばならない。日米安全保障条約はアメリカから突き出されたものであって、講和全権達も出発前にも知らなかった。

10/24 日本アメリカ文学会

谷崎精一

「ポー雑感」
ポーは性的欠陥があった

江戸皮乱歩

「ポーとディケンズ」

私は政経の出なので文学的な事は言えないが名前を貰っているので勉強しました。ポーはあるゆる推理小説の源です、自らの作品の中に以前にない小説の系列を現出した。

10/27 安保改定に反対する知識人教授学生の大集会一文自治会

加藤周一、阿部知二、平野義太郎、吉野源三郎、青野季吉(シンポジウム) *60年6/19新安保条約自然承認

10/27 箱ワンダーフォーゲル部

於大隈講堂

深田久弥(※氏は私の故郷山梨県茅ヶ岳で71年3/21没)

ヒマラヤ・ワンダーリング。ひとり山に昇る楽しさ。軽い支度で自然に溶け込み孤独と叙情を楽しむ。

辻 豊

ロンドン・東京五万キロドライブ、自著出版の紹介

11/28 文藝春秋愛読者大会

於東京宝塚劇場

井上靖

「作家の立場から」

小説の書き方には二つある。一つは六分或る人間が判っていて、四分は判らない。恋愛もひとりの異性も六分知っていて四分は判らない処に魅力を感じ、恋愛の過程を見出すー書く事によって残りの四分を見出すのだ。歴史小説は或る人間の瞬間を見出し、それを作者自身が完全に自分のものとして読者に与える。

有馬頼義

「小説にならない話」

いつも私は講演会の時間調整係である(笑)。慎太郎氏の代役になった事がある、悪口は言えない、本日舞台の裏に刃を持つているから。野球チームを結成して頑張っています。

小林秀雄

「雑感」

今日の出し物は「忠臣蔵」と思っていた。浅野匠守の歌の解釈、四十七義士は本当は四十六名である。一人の若者がその妻

にあてた手紙が残っている。時代は変われど、人の気持ちは少しも変わっていない。

12/23 教皇カトリック生員会文化部

亀井勝一郎

「現代芸術への謙感」

日本人の正しい性格の評価は、島国人、他国を理想化し劣等感を持つ、本場の東洋人ではない、東西の飛び火文化である。新しい民族の独立は混血が必要か。現代美術は建築の時代である。日常生活の中に美意識を求めよ。現代人は将来を考え過ぎで、現在、今という時間に緊迫していないか。

●一九六〇年

4/15

浅沼稲次郎

「新人生に語る」

※10/12に刺殺事件

10/11 文学研究会

於大隈講堂

中村光夫

「散文について」

読者は本をマスコミに読まされて、文学者は読者や観客を意識しない、若い作家は読者を友達を考えている、会話と小説とは違う。散文は歴史に始ま

り、言葉の裏にあるものを表現する。経験と個人の自覚、自己の思想を描く、詩は志の発するところ模倣もある。

金子光晴

「フランスにて」

34歳でフランスに渡った、船旅のことは書いた、出会ったシニールレアリストたち。

進藤純孝

「結局待つ心」

結局は大した事ではない、結局は成績表だ、結局を重んじると給料は高いほうがよい、女房は美しいほうがよい事になる。あたら青春を結局のために潰してよいものか。結局のみで急いでそこに生きる面白さを忘れないで欲しい。

中村真一郎

「私の小説感」

小説は芸術か。芸術は何か役立つものである、だが長くつき合わない判らない、ロシア文学は日本人の求めているものを与えてくれる。作家は世捨人の感が日本にはあるが、人生の可能性を追求する事。

安部公房

「現代芸術の可能性」

映画「忘れられた人々」を兎見た、その背景にはどうにもならない我々に責任がある。羽仁進の「不良少年」は自然のままの少年たちが描かれている

が、責任の追及もされている。

佐々木基一

「現代文学とは何か」

10/19 政経くらんすの会

田辺貞之助

「ヴィニーの詩」

新庄嘉章

「フランスから帰って」

山内義雄

「翻訳の仕事」ロマン・ローラ論

10/24 生協まつり

於大隈講堂

戸叶武

「浅沼委員長を悼む」

生い経ち、社会党、民衆政治家だった。早稲田精神の持ち主であり在野の人でもあった。

十返肇

「文学時評、マスコミの中の文学」

文学は映画と比較すると読み返しがきく。「雪国」の駒子を岸恵子が演ずると駒子像が固定化する、経験と知識の少ない人はそれで充足するが、文学の言葉は人々に各々のイメージを与える。

11/19 早稲田祭フランス文学研究会

「文学の社会参加の問題ー現代

文学の可能性をめぐって」(シンポジウム)

安部公房

「チチンアラ・ヤパナ論」渡辺淳 河台亭 安井源治

11/27 微意茶お茶の水女子大自治会

「現代文化の横断面」(シンポジウム)

中島健蔵 深尾須磨子(※我が高校母校校歌の作詞家、質疑応答した) 江戸不二夫 朝倉撰

12/3 モーム協会後期講演会

(※近年モームブーム再来)

中野好夫

「大衆作家モーム」

田中陸夫

「モーム最近の状態」

竜口直太郎

「モームの女性感」

D・H・ローレンスとの比較論

朱牟田夏雄

「モームと日本」

※私はW・S・モームを丸善で見た事がある。

12/7 一文化文化部講演会「現代日本の思想状況」

花田清輝

映画の製作法が歴史に則って前進する、安保闘争の見方

武井昭夫

安保闘争の歴史のみかた、「日本の夜と霧」の意味、芸術復活への資本主義のテロリズム、映画労働組合は富利より政治性へ。

竹内実

中国から見た安保闘争、毛沢東へロングより近づいてゆく、反独占、二者択一、中国の反日感情は戦争にある。

12/14 明治大神田公開講座

山田肇

「悲劇の精神」

悲劇は真面目で悲しく人の死を材料とするものが多い。人間の運命は神に結びつき、人間の誇りと苦悩の意識を根底として、哀れむべきではない、人間は何故苦しむのか結晶を出す。

千田是也

「演劇について」

和劇、歌舞伎や新劇への視点を、中国の芝居は農民の社会主義的視点から、政治、教育の建設路線につかえる民族の上に成り立つ。

●一九六一年

4/27 講演と映画教育生員会自治会

羽仁五郎

「現代と学生」

自由学園の成立、自著の紹介

自由学園の成立、自著の紹介



5/20〜21 東大五月祭

「現代歌舞伎をめぐる」

岩崎武夫 丸山武夫 三田政吉
河竹登志夫 武智鉄一 松本幸
四郎(シンポジウム)

観客、興行、批評、戯曲、俳優の代表の角度より発言 歌舞伎の予備知識の必要、小劇場運動の回転、料金の問題 歌舞伎も現代劇として見る等の意見

「明日の芸術と思想」(シンポジウム)

平井啓之

歴史の観点を持つ思考

岡本太郎

アヴァン・ギャルド論

谷川俊太郎

明日とは今日の事である、私は新保守派である、私の詩作

村上二郎

マルクス主義を勉強しなさい

石原慎太郎

岡本太郎氏の「沖縄文化論」を面白く思った。「赤とんぼ」はドイツの民謡ではない、復権。

6/20 小川未明追悼講演会 日本児童文学者協会

浜田広介

坪井譲治思い出

尾崎士郎

未明論をお嬢さんが書くと言う

秋田雨雀

私は演劇の道を歩いた

佐藤春夫

私の初期の詩について

山室静

アンデルセンの人形と、未明の「赤いローソクと人魚」の比較、日本の童話にも動物が材料となる。

6/21 文芸講演会

於大隈講堂

長谷川伸

「明治の東京と東京人」

「暇の母」と「関の弥太っぺ」解説

10/22 年協10周年記念講演会

於大隈講堂

高橋義孝

日本人について
日本人と死は、愛の衝動と破壊の行動死の二輪車である。森鴎外の作品にエネルギーを向けなおす事。

本多顕彰

「生活と文学」

体験と経験、作品は生活に材料を求め、生活に感動を与えるよう務める。

12/24 粘文学座談会

中野秀人

「アヴァン・ギャルド」について
大部隊の前衛となって突撃前進する軍隊用語である。キュビ

「純文学とは何か」

ズム、フォービズムとの融合で時間・空間芸術の形式と内容の規制を破壊する「広場」を持ち書いてゆく。

●一九六二年
1/20 文化講座
於築地本願寺

辰野隆

「演劇と人生」

文明文化の発達した国は難しい事を易しく言う、ドイツ、ロシア、日本は易しい事を難しく言っている。「シラノ・ド・ベルジラック」を鈴木信太郎と共訳した、パリで観劇した思い出の数々、パリに行ったら本を読むことはならん、芝居に行き、音楽を聴き、絵画を見る事だ。

2/20 伊勢丹展覧会

松本清張「日本文学史展」から

4/2 婦人公論女流文学賞大会

於読売ホール

網野菊

「受賞して」

正宗白鳥

「文学生活六十年」内村鑑三論

丹羽文子

「室生犀星と女ひと」潤一郎論

平野謙

「純文学とは何か」

中村光夫論、昭和文学の社会化、時代の変化による

平林たい子

「現代婦人作家の傾向」

私の小説化している、私の初期の小説

佐多稲子

「みづからの表現」

処女作の話、アンナ・カレーニナ論

井上靖

「最近考えている事」

野上弥生子

「書かれざるヒント」

「秀吉と利休」を書いた過程

10/22 早稲田大学創立80周年記念式典

於記念会堂

井深大

「祝辞」

今や東大だ、早稲田だと言っている時代ではない、日本から世界へ眼を向けよ。

丹羽文雄

「祝辞」

盟友近藤太郎の生活、母親の事、「親鸞」を書いた動機、我が文学の道(05年4/20没)

●一九六二年

1/10 婦人公論読者賞の夕べ

於読売ホール

有吉佐和子受賞「香華」の世界犬養道子

「私の暮らした日本探検」

石坂洋二郎

「お二人の受賞を祝って」

大宅壮一

「婦人公論の独自性」

私はここで女房を見つけました

石垣綾子

「女性の歩みと婦人公論」

女性の自立

亀井勝一郎

「有吉さんという人」

1/28 「世界文学」 発行講演会

於産経ホール

井上靖

「小説について」

渡辺一夫

「ある首のゆくえ」研究のむずかしさ」

フランスの王安リ四世の事、ムダと思える資料集め、比較思考する事が学問となる。

有吉佐和子

「旅で見た事考えた事」

伊藤整「西洋文学と日本文学」(下)は少し端折りました。

早稲田を卒業し社会人となってから渡辺一夫氏のお話を忘れずフランス史の資料を集め、93年12月に私は「仏蘭西王及び王妃と王朝人の肖像」を自費出版した。(了)

《東京都23区支部だより》

東京都23区支部とは

われら中野稲門会の上級組織となる「早稲田大学校友会・東京都23区支部」は、1999年に23区全てに稲門会が設置されたことにより、各区稲門会の相互発展と母校活動への協力などをねらいとして、2003年に組織。

主に、秋の稲門祭の大隈庭園会場支部大会とあわせて開く講演・懇親会(今年度は田原総一朗氏、3月22日に開催済み)、総長杯ゴルフ会等を企画運営しています。

組織としては、23区が3ブロックに分かれ(中野は第2に所属、板橋・北・新宿・千代田・豊島・練馬・文京)連携しており、年次支部長は各ブロック持ち回り(17年度は第一の荒川、18年度は第三の大田…)で選出されます。各区稲門会から一名幹事長または副幹事長が多い)が支部幹事役として出て諸活動を推進していますが、会議等も多くなってなかなか大変ではありません。

年二回『支部ニュースレター』が発行されており、支部サイト <http://www.waseda23.net> からご覧いただけます。もちろん、中野稲門会サイトからもリンクがあります。ニュースレター等ご興味あれば中野稲門会事務局にお問合せください。(17年度支部幹事伊藤毅)

東京都23区支部大会報告

藤本るみ子(東中野・昭45文)

三月二十二日(水)、我が中野稲門会からの十一名を含む四百五十名近い参加者を得て、東京都23区支部大会が開催された。今回は老朽化に伴う大規模修繕工事のため、本年四月より大隈講堂の使用が不能となるにあたり、その七十八年の歴史を惜しむ趣向が凝らされた会となった。

第一部の講演会は、エクステンションセンターとの共催となった。講師は早稲田大学特命教授であり、早稲田大学「大隈塾」塾頭でもあるジャーナリストの田原総一朗氏である。『日本の外交と経済』というテーマで日本が置かれている現状を日ごろの歯切れのよさで語られていた。

イラク戦争の失敗によって息を吹き返した大國イランと、内戦状態のイラクから漁夫の利を得ようとしてぐすねを引くロシアと中国。それを牽制できないアメリカ、その後ろでオロオロする日本。世界最大のマーケットの中にあるが、孤立する日本。単なる理念だけでは通用しない外交の未熟さが否定できない。若さ故の直情や好嫌の感情が一人歩きしないように、今もしかして求められているのは、

気遣いと配慮の早稲田的マネージメントではなかるうか、というお話であった。

講演後には、ヨーロッパ公演を終えた早稲田大学交響楽団の心震わす演奏を聞く、という予期せぬ幸運に浴することができた。曲目は、ドン・ファン、ラデツキ行進曲、そして早稲田大学校歌であった。

第二部は、会場を大隈ガーデンハウスに移し、白井総長のご挨拶に始まり、和やかな空気のなか、会員同士の話の輪が広がった。途中、現役女子学生による「早稲田ちんどん研究会」の南京玉簾のパフォーマンスがあり、その若く元気なパワーに会場は大いに盛り上がった。

校歌斉唱と総長室募金局長の口元氏による飛び入りの23区エール、練馬区稲門会会長の荻野氏の中締で、午後九時過ぎ、三時間余りの会が散会した。会が始まる頃降り出した雨が本降りとなったが、前日に開花したばかりの桜に更なる成長を促す恵みに満ちた雨ではあった。

中野稲門会のホームページにもぜひアクセスを!



<http://wnakano.moo.jp/>

これまで、何度か会報でもお知らせしてきましたが、中野稲門会にもホームページがあります。会員や部会の活動など、リアルタイムな情報もここにアクセスすれば、知ることが出来ますし、掲示板を活用することによって、会員の皆様から情報を発信することも可能です。また、会報のほかに月に一度のペースで、メールマガジンも配信しています。その配信も、サイトを通じて登録することが出来ます。「メールマガジンって何だ?」という方は、無料配信ですので、とにかく一度登録して、体験してみたいかがでしょうか? ネットへの接続環境のない方でも、興味がおありなら、最近増えてきているネットカフェなどを利用するという手もあります。ぜひとも一度覗いてみてください。



ご近所の花便り

鈴木伊津美（中野・昭55文）

つつじの季節

お散歩日和のこのごろです。今年も梅が遅くて桜が早く、いっぺんに春がやってきました。これからはつつじが見ごろです。

つつじの名所、といえば「根津神社」の「つつじ苑」。祭りの時には有料になってしまうのがちよい残念ですが、斜面一面に咲く三千本のつつじは一見の価値があります。

もうひとつ「小石川植物園」。玉三郎監督の映画「外科室」の中で、伯爵夫人に扮する吉永小百合がつつじに埋もれる道ですれ違う男に一目で恋に落ちる。この美しいシーンのロケ地が小石川植物園のつつじの道です。原作は泉鏡花、想的な映画です。サクリスト必見。

薬王院のぼたん

さてもう終わってしまうかもしれませんが、新宿区下落合の「薬王院」のぼたん。例年四月中々下旬が見ごろです。新宿線下落合駅から新目白通りを渡って一本奥の通りが入り口です。このお寺、しだれ桜もきれいなんですが、一緒に見られないと

ころが残念。

ここから「野鳥の森公園」目白に向かって「おとめ山公園」にかけてはよいお散歩コース。都心とは思えないうつつそうとした森です。

花と緑の祭典

最後に、中野区主催のイベントです。中野駅北口広場で毎年春と秋に開催される「花と緑の祭典」、今年は五月十三日（土）十四日（日）の予定だそうです。園芸指導のイベントのほか、農産物の直販も楽しみです。福島県・新潟県・長野県から特産物の販売もあり、毎年つい買い込んでしまいます。産直野菜は格別ですね。ほかにも名産漬物や、米、忘れてならない地酒など、見るだけでも楽しめます。



詩うた「音楽」

連載第十四回

坂田宏子（沼袋・昭41文）

眠られぬ 静かな深夜

プレスリー聴きては詠めど

筆はずすまじ

私は眠られぬ夜、流行歌やクラシックを聴くことがある。そうした時、短歌を詠もうとするが、簡単にはゆかぬことが多い。

華麗なる

「チゴイネルワイゼン」流れるを

聴き入る吾は 音の湯あみす

サラサーテの曲「チゴイネルワイゼン」は名曲である。軽快でもあり重厚でもある。私はこの曲を聴くとヴァイオリンの音に湯あみするように浸かっている気になる。

マスネーの「タイスの冥想曲」

眼を閉じて

メロディを連う 吾は弾きつつ

「タイスの冥想曲」はヴァイオリンだけでなくフルートとピアノで演奏するのを聴いたことがある。よく知られた曲である。

童謡は心のふるさと 幼き日

花いらもんめ「ひろらちゃんが欲しい」

「はないちもんめ」は箏笛・長持どなたが欲しい、というので、女の子の遊びと思うがなつかしい。

ものがなしい「月の砂漠」のメロディは 灯油宅配の タンクローリー

くらざさむ「春のうららの隅田川」

花の蕾の ふくらむ頃に

父母の歳を数えて 暮らしゆく

父母の好みし 歌をくらづさみつつ



「悪魔のトリル」は小品の名曲である。軽快なりズムでトリルを駆使して心地良い。

ヴァイオリンの「悪魔のトリル」軽快に

トリル生かして妙なる調べ

世界遺産への旅13 セビリアの大聖堂

市川孝二(江古田・昭29政経)



1992年にセビリアで世界万国博が開かれました。同じ年にバルセロナでもオリンピックも行われ、大きなイベントが同じ国で二つも開かれたのは珍しいことです。「コロンブスの新大陸発見とイスラム勢力の駆逐からの【500年を記念した】から」との説もありました。グアダルキビール川沿いのセビリアはイスラム支配下でも栄え、大航海時代には新大陸の貿易港として発展しましたし、マゼランもここから出かけました。大きな聖堂を作ろうと計画し、ヴァ

ティカンの大聖堂、ロンドンのセントポール大聖堂に次ぐ大きな聖堂を作りました。建物はゴシック様式を基調にルネッサンス様式も混じっています。この「ヒラルダの塔」はモスクのミナレット(尖塔)でしたが、アラバスク模様の外観は残して、鐘や十字架、更にバルコニーと青銅の女性像を追加しました。高さは97mです。観光客は階段でなくてスロープを登ります。私が行った05年夏は乳母車を押す人もいました。イスラム教の時代に「祈りの時間」を知らせ

る人がロバで塔の上に登るためとも言われています。大聖堂内部の見所はカトリック世界最大の祭壇衝立です。内部にはコロンブスの墓もあります。
塔のてっぺんに「信仰の勝利」を象徴する青銅の女性像が飾られ、この像が風によって向きを変えることからヒラルダ(風見鶏のこと)の名が付けられました。塔からの眺めは抜群です。
セビリア訪問は二回目です。92年の万国博で買ったTシャツを密かに持参して、当日着用しました。写真はその時のものです。前回も今回もホテルは「アルホンソ13世」です。JTBのツアーに参加しました。大聖堂



密かに持ち込んだTシャツを着て歩く筆者。

後の昼食のレストランは、予約したのに連休で休業でした。現地のJTBに連絡し二番手に行くも、これも休業でした。三番目にやっと入りましたが、ここは前回ホテルからの予約で食事したグアダルキビール川沿いのレストラン「リオ・グランテ」でした。思い出の場所に行けて幸運でした。昼食探しの時にJTB添乗員が手違いに怒り「ワインは現地事務所負担よ」と携帯で連絡した通り、思い出のレストランで昼間からおいしいワインを頂きました。夜はカルメンの舞台の街でフラメンコも鑑賞しました。



聖堂の下からの鐘楼(写真左)。登りきった回廊は観光客で一杯(写真右)。



会長だより

中野稲門会設立のあゆみをふりかえる

片平進一（野方・昭36商）

今年の7月5日で当会が設立されて8年になる。あつという間の8年間のようないふもする。このあたりで設立同時のことに思いを馳せるのも意義ありかなと思う。

そもそも私が中野稲門会の設立を思い立ったのは昭和61年の夏でした。私が卒業した昭和36年7月に商学部同期会を立ちあげた。その折、佐賀市出身の山城君が「片平、俺の市には稲門会があつて100人くらいいる先輩が集つて卒業祝ひをしてくれたよ」と誇らしげに語つた。それを聞いて、私は「そうだ自分の住んでいる中野区に早稲田の卒業生の会を作ろう」と思い立ったのである。

まず校友会を訪ねて校友会名簿（昭和60年12月1日発行）を購入した。本文1963頁、索引808頁のポリウムのあるA4判であつた。このポリウムもさることながら代金が一万二千円と高価なものであつて、毎日の小遣いが千円のサラリーマンにとつては一年分の小遣いに当たる高い買い物であつた。一方、これだけ高価なものを手にしたのだから有効に活用

有力な同志あらわる

「神我を見捨てず」とはまさにこのようなことを言うのだろう。平成9年1月、校友会の矢谷憲一課長（当時）を訪ねた折に、「津田信一という昭和28年卒で君の商学部の先輩も同じ事を考えているよ」と現副会長の津田先輩を紹介してくれた。これは5万人の味方を得た思いがあつた。いい時は次々とチャンスが訪れるものである。前会長の藤堂隆先輩（昭25年・建築）との出会いもこの時期である。

設立準備のための歩み

●9年2月13日（木）

校友会本部で矢谷課長、宮崎課長に会い、設立の意志を伝える。次の資料を受領（津田・片平）

- (1) 中野在住者リスト（卒年・現住所）
- (2) 中野在住教職員リスト（含む退職者）
- (3) 稲門会設立要項
- (4) 既存の稲門会の会則他

●9年2月25日（火）

染谷名誉教授を訪問し協力要請をする。（津田・片平）

以後、津田氏、総長、常任理事、中嶋代表幹事と面談

●9年4月22日（火）

（榎丸井 青井社長秘書（前） 牧内辰三氏（早大出身）と面談（津田・片平）

設立に監視協力要請をするも、青井社長は社業以外には積極的でない旨の話あり。

●9年5月7日（火）

職域としての協力要請のため、（学）織田学園常務理事 織田知明氏（昭和33年卒）、事務長藤田幸作氏（昭和33年卒）に会う。ここで石塚貞布氏（昭和33年経済卒中野区在住）を紹介してもらう（3人とも高等学院出身）。

石塚氏から中野在住の唐木清水、川口、遠山の各氏に紹介する旨の約束をする。いずれも中野在住の有力校友。

●9年5月30日（金）

武部道夫氏、壁谷道明氏（元朝日新聞社勤務）と高田牧舎で会う。（津田・片平）

●9年6月9日（月）

藤堂隆氏（中嶋校友会代表幹事の紹介）から次のような提案があつた。

- (1) 設立資金の一部として10万円寄付する。
- (2) 付近に住居するものに依頼文を届けることをする。
- (3) 地区別に準備委員を配置して趣意書等を配布する体制を考える。
- (4) 1000通以上の郵便物は特別料金（65円）の制度がある。

●9年6月28日（土）

津田、藤堂、片平、打合せ

- (1) 地区別名簿の作成（区内を21の地区に分け、地区ごとに2、3人の準備委員を置く）
- (2) 会計には女性（できれば公認会計士、税理士）をあてたい。

●9年6月30日（月）

大学教職員（現職）の中から太平洋アジア研の工藤尚子（60年英文卒）さんが教職員の窓口として協力（2、3名の世話人候補の人選を依頼）

●9年7月9日（金）

染谷先生と面談（以下番号つづく）

スポーツ観戦同好会発足のお知らせ



かねてより会員のみなさまからリクエストの多かった、スポーツ観戦の部会が、いよいよこのたび、発足することとなりました。共に母校の名誉のために汗を流す学生たちを応援しながら、親睦を深めてみませんか？

世話人代表 篠本京二 (上高田・昭 42 商)



この1月21日の中野稲門会新年会でスポーツ観戦同好会立ち上げの趣旨を説明させて頂き、その後2月25日に会員24名の内8名の参加で第一回立ち上げ会を開催し、初年度の運営について打ち合わせしましたのでご報告します。

打合せ事項

1. 観戦対象の早稲田スポーツについて

(1) 春季 (5月末)、秋季 (10月末) の東京六大学野球の早慶戦

(2) 10月下旬駅伝予選会、1月2日~3日の箱根駅伝

(3) 12月初旬の関東ラグビー対抗戦の早明戦、1月8日前後の大学選手権決勝

2. 連絡方法について

現会員24名の内、e-mail 方法の連絡先14名、FAX方法で10名。基本にこの両方法で連絡を取り合うことにしました。

3. 会長及び世話人数名の選出について

初年度として4名の世話人を選出し、次年度については再度打ち合わせとする。

●世話人代表 篠本京二

〈世話人〉

・駅伝担当 山本知由

・ラグビー担当 小岩一也

・野球担当 永田浩章

スポーツ観戦同好会はスポーツ観戦及び懇親会を通して、会員相互の親睦を深めることを目的とし、この目的を実現すべく世話役一同知恵を絞って観戦企画を立案しますが、主役はあくまでも会員の皆様ですので、積極的に参加されて、この会を盛り上げるよう是非ともお願いします。また、観戦にあたりましては、チケット・集合場所・時間等で会員の方々にご協力をお願いする場面もありますので、その際は何卒ご協力下さるようお願いいたします。

なお、観戦の企画が決まり次第、中野稲門会のWEB上掲示板に発表しますので、会員以外の方々の参加も大歓迎。皆様と一緒に観戦し、親睦を深めるように運営を図りたいと考えております。

スポーツ観戦同好会
世話人代表：篠本京二

【連絡先】

電話：TEL/FAX3386-1075 (自宅)

E-mail アドレス

shinomoto@m9.dion.ne.jp

● ラグビー通信 ●

清宮監督率いる「佐々木組」は関東大学対抗選手権に優勝し、次に1月8日国立競技場で開催された全国大学ラグビー選手権決勝で関東学院大学を41対5で撃破し優勝。

日本ラグビー選手権大会2月4日1回戦の対タマリバ戦は47対7で快勝。2月12日の2回戦の相手はトップリーグ4位のトヨタ自動車で昨年惜敗したチームでした。早稲田が28対24のリードで残り10分トヨタ自動車がワントライで逆転勝利すべく猛攻撃を仕掛け、一方ゴールラインを背後に早稲田は懸命の防戦。秩父宮ラグビー場の全観客は総立ちになって早稲田コールの大合唱。ノーサイドのホイッスルで歓喜の渦が巻き起こりました。2月19日の3回戦はトップリーグ1位の対東芝府中戦で残念ながら0対43の惨敗に終わりました。

この試合が早稲田ラグビー部の最終公式試合となり、翌日には5年間に亘る清宮監督が退陣表明。2月21日には平成18年度の新体制が発表され、

新監督は中竹竜二氏、新主将は東条雄介選手(フロンカー)と決定。

また、「佐々木組」4年生の卒業と入れ替わりに、この4月にはスポーツ推薦の有望新人9名及び新規入部者、合計30余名程の新1年生が「東条組」に加わります。4月以降中竹新監督の指揮の下に「東条組」がどんな陣容と作戦で早稲田ラグビーを新規構築し、来年2月日本ラグビー選手権でトップリーグ相手に挑むのか関心を持って見守りたいと思います。

5月に入りますと早稲田上井草ラグビーグラウンドで他大学との練習試合が週末に開催されますので、興味のある方は応援方々新戦力を見学しては如何でしょうか。

篠本京二





部会活動

こんな活動
やっています!

同好の士が集まって、活発に活動している各部会からの報告です。
気になる部会があれば、お気軽にご連絡ください。

江古田蓮華寺にて音島祭羅の世界・音楽法要に参列

熊澤明様に御紹介頂き、音楽会形式のお会式に伺いました。この度のテーマ『無常』について御住職様よりお話があり、その後式衆の読教と共に世界的に高名なマルタさんのサククスやギターや打楽器の演奏という斬新なる法要です。
恥ずかしながら『オカイシキ』と読み『マンダラケなら知って



るけれど』と仏教事に明るくない私でしたので、境内に一步踏み入れたときは、荘厳なる様に圧倒されてしまいました(実際は信徒さんだけではなく、一般にも門戸は開かれており、疎外感なく臨めました)。楽器のごとく見事な築りの御堂にて未知の音色に出会ったのでした。

声明にジャズの「I am a fool to want you」やジャンベ(アフリカの太鼓)を重ねたりと、意表をつく表現法ですが、次々と掛け合わせり、不思議と調和してゆくのですね。終盤のセッションには参列者も皆、うちわ太鼓で加わり、渾然一体となつて高く響き渡り、気迫溢れる盛り上がりでした。私の脳裏には何故か俄かに幼い頃、リュート奏者の母に連れられ、グレゴリ

才聖歌や中世音楽に触れた思い出が蘇りました。共鳴音か何かに相通するものが在るのでしょ

うか?
古い記憶を辿りつつ、教えを尊ぶ心と音の源には境界線はないと、改めて認識し帰路についた次第です。高尚なる週末でした。熊澤様、ありがとうございました。(市川哲子)

第22回の音楽部会パーフォ

第22回の音楽部会パーフォ(食事と共に音楽を楽しむ)はヨーロッパアンクラシックをチェロで楽しみます。ストラディバリウスの音色はどう響くのでしょうか?

詳細はインターネット、中野稲門会サイトにて。もしくはチラシがございましたのでご請求ください。

◆ ◆ ◆
CHERO 山十JOAN薫
PIANO Vadim Gladkov
シューマン、ショパン、バッハ

【日時】 6月9日(金)

午後3時開演

【場所】 a t a バコ

(早大文学部前)

【会費】 5,000円

事前、当日OK(お茶、お菓子付)

【問い合わせ&申し込み】

萩原(連絡先は15ページの連絡

先一覧にあります)

高田 03(3333)0962

eメール

takada_ys@hotmail.com



杉並と合同でゴルフコンペ奮ってご参加を!

第13回中野稲門会ゴルフ部会のコンペが下記にて開催されますので部会員はもとより初めての方も奮ってご参加ください。

【日時】 平成18年6月1日(木)

【場所】 若洲ゴルフリンクス

【スタート】 8時よりアウト・

インに分かれて6組

【プレー費】 約14,450円

(食事・飲み物は各自負担)

【会費】 5,000円(賞品代、

パーティ代、対抗戦代等)

昨春初めて使ったところ大好評だった若洲ゴルフリンクスを今回も橋本辰一郎氏にお願いし12組確保していただきました。杉並稲門会に昨年同様に合同でやりませんかと呼びかけました

ところ、大乗り気で5組20名参

加という返事が戻ってきました。主人サイドの中野としては24名以上の参加申し込みがないと格好が付きませんで大勢の参加をお待ちしております。

今回の競技は杉並と合同になりましたので個人戦はハンディキャップ方式ではなく新ペリア方式になります。それぞれの会のベスト7名のネットスコアで競う団体対抗戦も行います。前回の団体戦は僅差で杉並稲門会に負けておりますので中野稲門会はなんとしても雪辱しなければなりません。そのほか恒例のオネストジョン等楽しい企画を用意しております。

入梅前の一日をすっかり緑一色に覆われたフェアウェイで東京湾からの海風を受けながらゴルフを楽しみましょう。プレー後のパーティもゴルフ場が都内なので電車・バスで来てもらえば、アルコールも大いに進み懇親を深めることができることと思います。

申し込みの締め切りは4月末日としますので、奮ってご参加下さい。

「連絡先」 唐木強介
〒165-0026

中野区新井二一五〇・四

※電話番号、FAXは左下の連絡先一覧にあります。



4月の例会は恒例のお花見

月一回、恒例の知技研。冬の市川邸につき、4月は伊丹翁主催のお花見となりました。

●開催告知もノリノリ

いつものことながら、意味深い召集令状が名文なので、前からご披露します。

春など、まだまだ遠い……と、

白梅妃・紅梅姫、つばきさん、すみれちゃん、桃ちゃん、など早春のお姫さまたちと、

♪♪春よ来い 早く恋 歩きはじめたミヨちゃん……♪♪

などと歌いながら、甘

酒など、ノンビリと酌み交わし、まだ寒いなー、といっております。

した。ところがこれが、翁の油断、いつもより

早く、中野通りにウヘー、「桜姫」がおどましになるとの情報。

そこで勝手ながら、



去年も行いましたが、4月1日(土)に、「緊急・知技研・観桜会」。咲いたままでいてくれるか? 散って、しまうのか? 桜姫に問えば、「わかりませぬ」との返事。ただ、ものの本によれば、早咲きの桜はいのちが長い、という話もあります。

●企画案も花盛り!

絶好のお花見日和に恵まれて、宴会で満杯の薬師公園で落ち合、中野通りをそぞろ歩きしながらいきつけの香港亭にて、ポンプロ(たぬきさんの隠れ家庵の早期開店期成同盟)の話題で盛り上がりました。

以下は寄せられた歌。

【部会連絡先一覧】

興味を持ったら お気軽にご連絡ください

部会名	幹事	連絡先
ゴルフ部会	唐木強介	正木商会 TEL 3553-0951 FAX 3553-5355
		自宅 TEL 3388-8566
囲碁部会	武部道雄	自宅 TEL 3385-5379
カラオケ部会	菊地正一	自宅 TEL 3386-3753
絵画部会	高田豊長	自宅 TEL 3372-6929
音楽部会	萩原博茂	清香堂 TEL 3386-3640 FAX 3387-4272
		E-mail codo@ma.newweb.ne.jp
「男と女を語る集い」 芸能を通じて	近藤喜佐雄	自宅 TEL/FAX 3386-2962
知の技術研究会	増山栄太郎	E-mail masuyama@ca.mbn.or.jp
	平崎敏之	中野稲門会事務局 (新日警)
広報部会	平崎敏之	新日警 TEL 3384-1400 FAX 3384-1489
稲門女性 ネットワーク	高田宜美	自宅 TEL/FAX 3383-0962
スポーツ観戦同好会	篠本京二	自宅 TEL/FAX 3386-1075

【浩翁】
花見して 残りの時間 考える
櫻花 我が見る機会 何回か
しんみりと 残る花見を
数うかな
花見なり すぎしこのかた
想う今
花は散る 過ぎし盛りを
重ね見る
老いた今 花の散りぎわ 想う今

【谷上林氏】
舞いちりし桜ふりきり
岬町(エーゲ海)
いき果てて身はなきものと
思えども 桜舞う日は
幾夜残こせし



絵画部講師 高田豊長

情報機器の作り出すバーチャルリアリティーが肥大化し、人間同士の直接のふれあいが希薄になり、心を豊かにするものが減少して、異常性ばかりが目



な教師です。絵画部の皆さんは絵をご自分なりに勉強しておられます。そして絵画の世界を理解しようと努力しておられますので、私もお互いに絵画の中に想像力を働かせて、楽しく充実した時間を過ごせる教室でありますように心がけております。

につく世代で、進歩した科学でも人の心は解明できない現状です。

ストレス現代には、物理的、精神的、そして社会的なものを満たしてくれるものに絵画があります。

アーティストは想像力溢れる生成は、事実の記録より遙かに優れた知への道であると言っています。国が違っても、年齢が違っても、強い想像力によつて相手の心に触れ合う事ができることでしょう。想像力は自分を客観的に見られるようにしてくれる優秀な教師です。



杉並カラオケ部会と交流深まる

昨年の12月17日に杉並のカラオケ部会と合同で、初のカラオケ親睦会が荻窪北口のホテルクラフインで開催された。杉並側から8名、中野側は10名の参加を見た。会は順番待ちの盛会で盛り上がり、会話にも花が咲いた。これが契機となり両区との交流は親密の度合いを増している。3月に行われた例会などは杉並からの参加もあり、何時もの会場「艶歌」は会場せましの感であった。これからも濃密な交流が頻繁に行われるだろう。当会は毎月3週目の土曜日を会員交流の日と予定している。参加ご希望の方は幹事菊池まで連絡してください。

岩井 信

FA X 03 (3388) 1780



編集 後記

「ん、今回の会報、何か雰囲気違うな」

などと思われた方はいらっしやいますでしょうか？ もし、そのように感じられた方は鋭い！ 実は今回の号から、パソコンのレイアウトソフトを変えたのです。

これまで使っていたのは「クオーク」というソフトで、その作業はマッキントッシュのパソコンで行っていました。これを自宅のウィンドウズの組み込まれたパソコンでも作業できるようにと、今回から「インデザイン」というソフトに変えたのです。誤解のないようにことわっておきますが、「クオーク」にもウィンドウズマシンに対応したソフトは出ています。しかし、ソフト自身が高いうえに、文字の種類を一通りそろえようとすると、さらにコストがアップしてしまつたため、とてもではありませんが、ウィンドウズの環境で「クオーク」を使うことには踏み切れなかったのであります。

「インデザイン」は「クオーク」に比べれば、ソフト自体の値段も格段に安いうえに、文字の種類をそろえるのも低コストで抑えることができます。とてもありがたいソフトなのですが、それを使いこなせるようになるには、新たに操作を覚えなくてはならないという関門があります。同じレイアウト系ソフトであるため、操作系は似てはいるものの、細かな部分での違いにいろいろと戸惑つてしまいました。その影響は、校正作業時間の短縮という形で表れてしまいました。同じ広報部会の方々、そして原稿を寄せて頂きました会員のみなさまに、十分な校正の期間を作れなくて、本当にごめんなさいです（へこり）。

けれども、これで何とか新兵器も導入されたことですので、できるだけ早くそれを使いこなせるようになって、さらに充実した紙面作りに邁進したいと思っております。

なお、今号において、何か不首尾な点がございましたら、すぐに事務局か広報部会にまでご連絡下さい。

(永田)